



敦賀港

～港湾振興に向けた取組について～

福井県産業労働部企業誘致課

敦賀港の貨物取扱量

敦賀港総取扱貨物量は1,590万トン 全コンテナ取扱個数は77,832TEU
本州日本海側第2位の取扱量です

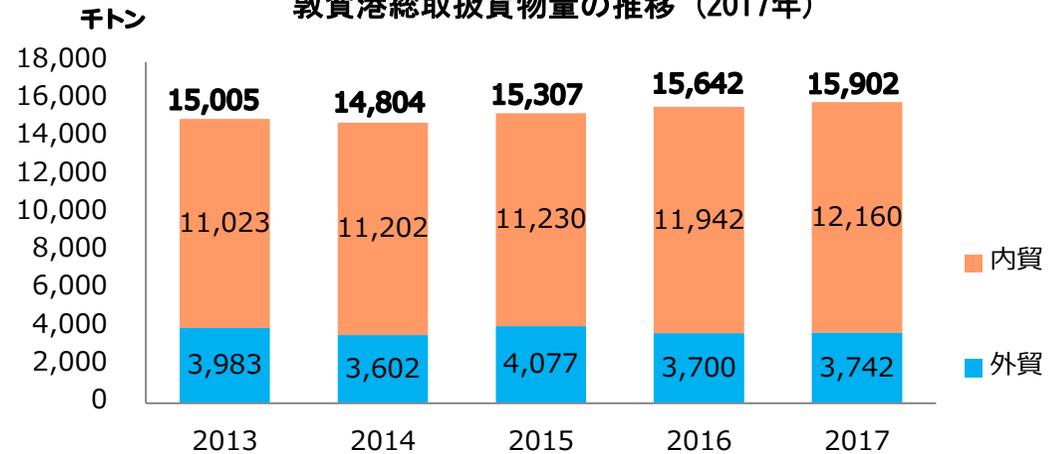
本州日本海側港湾 総取扱貨物量ベスト3 (2017年)

順位	港湾名	貨物量
1	新潟港	3,117万トン
2	敦賀港	1,590万トン
3	舞鶴港	1,161万トン

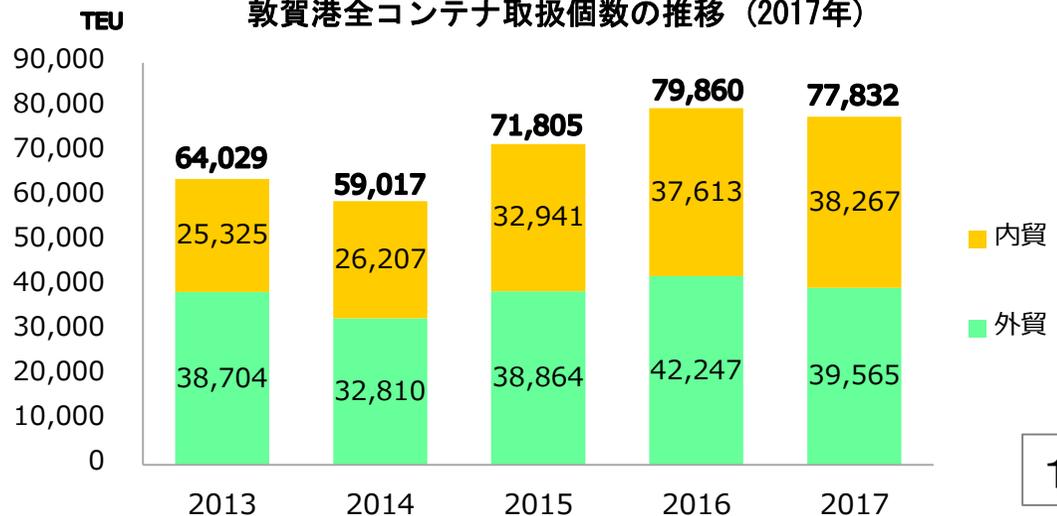
本州日本海側港湾 全コンテナ取扱個数ベスト3 (2017年)

順位	港湾名	取扱個数
1	新潟港	226,907TEU
2	敦賀港	77,832TEU
3	伏木富山港	76,445TEU

敦賀港総取扱貨物量の推移 (2017年)



敦賀港全コンテナ取扱個数の推移 (2017年)



敦賀港の主要施設・様々な輸送手段

内航RORO
(北海道)



北陸電力
敦賀火力発電所

国道 8号

敦賀セメント

内航RORO
(博多)



4月より
就航決定!

敦賀 I C

高速道路

敦賀市街地

臨港道路

バルク船



内航フェリー



2018年3月着工
2022年度
完成予定

水深
-14m

鞠山南地区
多目的国際ターミナル

水深
-10m

国際コンテナ



鞠山南CFS



国際RORO



約500m

BCPの観点からの活用事例

敦賀港からの輸送訓練

トヨタ 南海トラフ地震時に代替



大規模災害時の代替輸送の実証試験で、専用の自動車運搬船(左奥)に新車を積み込む作業。10日、敦賀港

日本海側で初

トヨタ自動車は10日、南海トラフ巨大地震などで太平洋側港湾が被災した際の輸送車の代替輸送ルート確保のため、敦賀港で実証試験を行った。同社が検討する災害時の事業継続計画(BCP)の一環で、本州の日本海側港湾で初めて、専用の自動車運搬船が寄港し、愛知県内の工場から陸送した新車50台を積み込む訓練を行った。(青木伸方)

50台積み込む

同社の国内工場は愛知、徳島を利用している。実証試験は南海トラフ巨大地震など太平洋側で太平洋側港湾の復旧が長期になる場合の流通も通常は太平洋側

を考慮し、日本海側からの輸出や輸送ルートの確保を検討する狙い。敦賀港は日本海側で中部地方から最も近距離にあるため、試験の候補地に選んだ。同港金ヶ崎地区の岸壁付近の用地には、7日に長若工場(愛知県大府市)などから陸送で運ばれてきた中国、韓国向けのRAV4やプリウスなど新車50台を配置。この日は自動車運搬船「豊洋丸」(全長129メートル、5千トン)が同埠頭に接岸した。作業員は新車一台一台に傷がないかなどをチェックした後、車に乗り込んで運搬し、慎重に船内に積み込んだ。積み込み作業のほか、盗難防止のセキュリティや岸壁の作業環境などを確認する模擬訓練も行った。この後、運搬船は新門

司港(北九州市)に向けて出港した。50台は同港で積み替え輸出される。国、県、敦賀市、秋田県や新潟県などの日本海側の港湾管理者ら関係者約50人が見守った。訓練を見守った山田賢一副知事は「万一の時に敦賀港を使ってもらうためには口頃のネットワークが重要になる。実証試験を契機に、港の利用をひいてほしい」とトヨタ側に求めた。同社は実証試験の結果を検証し、BCPに代替輸送の候補港として敦賀港を位置付けることを検討する方針。担当者らは「大規模災害で太平洋側の港が使えない場合は、敦賀港が代替輸送の最重要港湾の一つとなる。工場から地理的にも近く、使用するための検証をしっかりと行いたい」と話した。

平成29年10月、トヨタ自動車が南海トラフ巨大地震などで太平洋側港湾が被災した際の代替輸送ルート確保のため、敦賀港で実証実験を行った。

同社が検討する災害時の事業継続計画(BCP)の一環で、本州の日本海側港湾としては敦賀港が初めて選ばれた。

クルーズ客船の受入状況

- ・平成29年9月に海外クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」が敦賀港に初寄港
平成30年度は4月に同クルーズ客船が寄港し、港周辺は大いに賑わいました。
- ・寄港日に合わせた花換えまつりの実施や地元高校生による観光案内など、
県民との交流やおもてなしの心がクルーズ客船の乗客・乗員たちに高く評価されました。



花換えまつり



地元高校生によるおもてなし



雅楽演奏



観光物販ブース



伝統工芸体験



船内でのオペラ披露